

スイス プチ・パレ美術館展 印象派からエコール・ド・パリへ

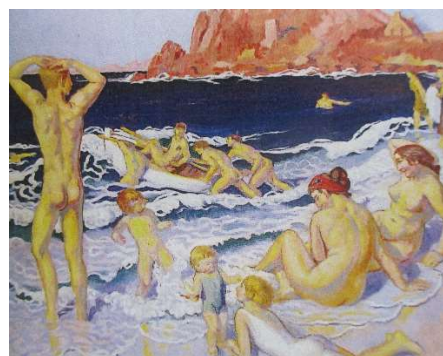
SOMPO 美術館（西新宿） 2022.07.13～10.10



モーリス・ドニ 《休暇中の宿題》 1906年

スイス・ジュネーブの「プチ・パレ美術館」は、実業家「オスカー・ゲーズ」のコレクションを公開することを目的に設立され、19世紀後半から20世紀前半のフランス近代絵画を中核とするコレクションを所蔵しているが、1998年に休館して以来現在まで一般公開はされず貸出中心の事業を展開している。

本展は、同館が収蔵品している、「印象派、新印象派、ナビ派、フォーヴィスム、キュピスムに、エコール・ド・パリ」というフランス近代絵画の美術運動の流れを38名の画家による「油彩画65点」を展示して注目されている。



J・ルノアール 《詩人アリス・ヴァリエール＝メルツバッハの肖像》 1913年

ギュスターヴ・カユイボット 《子どものモーリス・ユゴの肖像》 1885年

印象派の作品で、戸外の光の効果を用いた色鮮やかな色彩と素早い的確な筆遣いが特徴であるが、随所に印象派画家が好まなかった黒色が使われている。

モーリス・ドニ 《ペロス＝ギレックの海水浴場》 1924年

ナビ派（ヘブライ語で預言者を意味する）の作者らは、宗教的な秘密結社に近い正確を持っており、神秘的なテーマを扱い人間のもと夢や苦悩など、形なき精神世界を描いている。